



後藤 祐司さん  
Goto Yuji

〔上掲区〕

後藤さんと韓国語との出会いは、大学4年のとき。大学ではドイツ語専攻だったが、韓国での研究会に参加して韓国語のイントネーションなどの特徴に興味を持ち、そこから自分で韓国語を習得して研究始めた。

言葉を学び、身に付けることの大切さの一つとして、「日本人同士だと起こりえない言葉の違い、文化の違いから異文化化をること」と後藤さん。「言葉を通して触れる異文化を体験することで、自分たちの文化を見直す機会となる。似てる部分と違う部分を知ることで、自己文化を見つめ直せるのでは」と、言葉が開く世界を説く。「言葉を知ることは、その言葉を話す人たちの主張を直接的に理解する手段を得るということ。メディアを通して理解することは、また一味違う」と展開。

そして、「文化と文化が接したときには、摩擦もある」と後藤さん。「ぶつかりながらも、妥協せずに上手く向き合って交流できるかどうかが、異文化と触れ合う上で、特に大切にすべきこと」と、異国の地で言葉と新鮮な気持ちで授業の準備ができました」と教壇を楽しんだ。

「言葉を学ぶということは、その言語の文化に触れるという」と語るのは、町公民館自主講座で、今冬に集中講座で開講された「はじめての韓国語」の講師を務める後藤祐司さん。

現在、韓国・ソウル大学の博士課程で、言語学を研究する後藤さん。大学の休暇を利用して「研究している韓国語を通して、お世話になつた故郷・甲佐町への恩返しができないか」と考え、町公民館事務局に講座の企画を持ち込んだ。「昨今の韓流ブームで、言葉を通して触れる異文化を基に自分の文化も見つめ直す

文化に向き合い学び続ける。

## 広報 こうさ

2012年(平成24年)2月号  
通巻511号